



四万十町
町内「ぶら〜り」散策

芳よし

川かわ

田 野々の街から梶原川沿いに国道439号を走り始めると、すぐに江師トンネル、続いて小石トンネルをくぐる。そこから500mほど行くと芳川への右折表示が現れる。川の内側のバス停があるところである。表示に従って右折し、芳川川沿いを東に入っていく。最初にある集落は川の内地区であるが、さらに車を走らせると芳川地区となる。川に沿って点在する人家を通り過ぎながらしばらく行くと、少し開けたところに出る。そこに地区の集会所がある。国道から3kmほど入ったところで、以前は芳川小学校があったところである。芳川小学校は、今から50年ほど前に閉校となった。

この小学校跡の裏山が国有林で、林業が盛んだった頃には大正管林署芳川事業所があり、地区にはその職員の家族たちが多く住んだ。児童もたくさんいて、年に一度の運動会には、たくさんのお客さんが来て、それは賑やかだったという。また、地区には食料品店などの商店もあった。当時は木炭の生産が主力で、検査員による品質検査を終えた生産者の元には、業者から委託された銀行員が直接代金を支払いに回ったそうだが、木炭の生産が下火になると、乾燥椎茸の生産がそれに取って代わった。

ところでこの芳川の国有林であるが、前回、下津井の回でも記したのと同じ、良質の山林として土佐藩から指定された「御留山」の一つであった。初めは名本という役職が置かれていたが、その後庄屋支配に格上げされ、地区の広大な御留山の管理に当たった。



集会所には、芳川小学校で使われていたという教員の机が存在感を見せている。

ここ芳川のも「由緒正しい山林」だったのである。

しかし時代は移り、事業所が撤退すると同時に一気に人口が減り、ほどなく小学校も閉校することになった。そしてその跡地に集会所が建ち、さらには、地区内の別の場所にあったお寺(茶堂)が、ここに移転された。

この茶堂には極めて珍しい石仏がある。京都や奈良などには「十一面観音像」を祀る名刹がいくつかあるが、この茶堂にあるのは三面観音像で、珍しいのは、その手に持っているものである。三面観音像から伸びている4本の手には、鉈・斧などの山で暮らす人々の実用品が握られているのである。その指も丁寧に彫られていて、作品性が高いものである。文化財として、たいへん珍しく貴重な石仏である。

地区の産土神は河内神社で、現在この地区には7世帯、17名が暮らしている。

町のうごき	(10月31日)		前月比	出生 死亡 転入 転出				適正值(mg/l)		11月12日	
	男	女		男	女	計	計	リン酸	硝酸	アンモニウム	アニオン活性剤
	7,862	8,649	-8	3	18	19	12	≤ 1.0	0.293	≤ 5.0	0.10
	16,511		-19	7	33	29	22	≤ 10.0	2.190		
	8,360		-18	(10月中の届出)							
	窪川地域 11,684人	大正地域 2,303人		十和地域 2,524人							

※11月号(9月30日時点)での窪川地域の人口が11,679人となりましたが、正しくは11,697人です。訂正してお詫言いたします。

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部